

プロジェクター取付型「電子黒板ユニット」のご紹介

—オートキャリブレーションで準備が簡単、大画面で電子黒板が活用できる—

エプソン販売㈱ ビジネス営業企画部（文教・自治体）

課長 廣瀬 嘉之

<http://www.epson.jp/>

キーワード：電子黒板、オートキャリブレーション、大画面

1. 短い休み時間でもすばやく準備！！

オートキャリブレーションで準備が簡単

エプソンでは、プロジェクターの上部に取り付けて活用するユニット型の電子黒板を昨年12月に発売しました。

最大の特徴はキャリブレーション（位置合わせ）が自動でできること。専用ボードタイプや投写面にセンサーを貼り付けるタイプは一般的に接続や、キャリブレーションに手間と時間がかかりますが、エプソンの電子黒板ユニットなら簡単。わずらわしいキャリブレーション作業が自動ででき、配線もシンプルな為、短い休み時間の間にすばやくセッティングができます。

またユニット型なので教室間の持ち運びも負担にならず、手軽にICT活用ができます。

2. 投写面を選ばずに低コスト

ユニットがプロジェクター側についているから、投写面を選ばず学校のさまざまなシーンで活用できます。

（1）既存の黒板を活用できる

プロジェクターと合わせて使用するため、投写面に合わせて大きさが自由自在。黒板いっぱい投写すれば最大で90インチ※の大画面になり、教室の後方の子どもたちにも、画像や文字を見やすく提示することができます。また、プロジェクターを直接黒板に投写し電子黒板として使用できるので、新規に専用ボードを購入する必要がなく、経済的です。

※黒板の盤面の高さが1200mm、プロジェクター解像度 WXGA の場合。

（2）掛図や立体物にも書き込みできる

黒板以外にも教室にあるOHPスクリーンや体育館の壁、さらに学校にある既存の掛図教材、人体模型等にも電子ペンを使い書き込みができます。

普通ならペンで書き込むことができない共有教材でも、書いたり消したりが自由自在。既存の教材の活用幅が広がります。

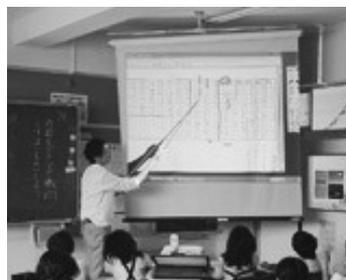


写真1 OHPスクリーンに書き込みをする様子

（3）導入済みのプロジェクターで利用可能

すでに学校にプロジェクターをご導入いただいている場合は、ユニットを追加するだけで電子黒板として利用が可能になります。



写真2 プロジェクターにユニットを設置している様子

※対応プロジェクターに関しては、カタログまたはホームページをご確認ください。

3. 授業での効果的な教材提示が可能

（1）書画カメラとの連携

便利な機能として、電子黒板のペントールからボタンひとつで書画カメラを呼び出すことができ、さらに活用方法が広がります。たとえば、立体物の教材を書画カメラから投映し、そこに書き込みながら解説をしたり、子どもたちのノートを大画面で共有し、みんなで見え交換をしながら書き込むことができます。



写真3 電子黒板と書画カメラを接続している様子

※対応機種は ELPDC06、ELPDC11

※USBケーブル接続となります。

（2）豊富なテンプレート・スタンプ

電子ペンを使って、投写面上に直接文字や図形などを書き込みます。表示されたペントールボックスから描画、保存、書画カメラ連携など、多彩な操作が可能です。

【製品詳細】

製品名：電子黒板ユニット ELPIU02

オープンプライス

※エプソン展示ブースにて、こちらの製品を展示しておりますので是非お立ち寄りください。